

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100195		
法人名	(有)暮らしの里		
事業所名	グループホーム暮らしの里さくら苑		
所在地	千葉市中央区都町6丁目9番地70号		
自己評価作成日	令和4年3月2日	評価結果市町村受理日	令和4年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>温かみのあるもう一つの我が家を理念としています。 利用者の皆様が、笑顔で自分らしく生活できるよう努めています。 職員は利用者の皆様との関わりを大切にしながら、信頼関係を築きよう努めています。 利用者のレベルや個性を尊重しながら、出来ることに参加して頂く努めています。 ご家族の皆様にも気軽に声を掛けて頂けるよう努めています。 職員は、利用者の寄り添い、相手の立場になり、尊敬と思いやりを持ち接するよう努めています。 ご家族の皆様には第二の実家のように、いつでも気軽にご来苑して頂けるようにしてまいりましたが、現在は、新型コロナウイルス感染予防のため、残念ながら、ご来苑を制限しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしい暮らしを大切にした家族的な支援に努めている。 コロナ禍により以前のように、イベント参加や外出等ができない状況であるが、ホーム内で季節を感じたり、楽しく充実した時間が過ごせるように取り組んでいる。管理者は、職員を大切にされた関係性づくりに力を入れている。また、ホーム内でのOJTや外部研修参加、会議等で実施される定期的な研修等により、人材育成に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の認知症状、性格や生活歴を共有しながら、「温かみのあるもう一つの我が家」を心がけ生活できるよう努めています。	生活及び支援を通して理念の共有と浸透に繋げている。職員は、利用者の特性や価値観に寄り添い、違いを受容しながら理念に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染予防対策により、日々の近隣お散歩が中止となり、現在は地域との日常的な交流は出来ていません。	コロナ禍で、以前のような外出やイベント参加はできていない状況である。ホーム内で季節を感じるできるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染予防対策により、地域の人々に対して接することが減っていることから、認知症に関する理解や支援方法を生かす機会が減っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染予防対策により、書面開催となっていることから、直接の話し合いが行われていません。事前開催報告の下で、意見、質疑等を提出して頂きサービス向上に活かすよう努めています。	コロナ禍で、対面での開催はおこなっていないが、書面での情報共有や意見交換を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な内容の相談等も市の担当者と協力体制を築きことで相談しやすい状態にあります。	市町村担当者とは必要に応じて連携し、事業運営上の相談や情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修において身体帯拘束禁止、やむを得ない場合の身体拘束対応を周知しています。但し、ホール・玄関は、認知症の人々の安全を考慮し施錠を余儀なくされています。	「身体拘束適正化のための指針」があり、運営推進会議の中で「身体的拘束廃止委員会」も開催している。また、定期的に研修を実施し、権利擁護、身体拘束、虐待など、基本的事項について周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修において虐待を見逃さない、また、報告と義務についてを学び、外部連絡先を周知しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から相談を受けたり、成年後見人制度が必要と思われた場合はお伝えし、希望があれば、活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の相談や見学時の質疑応答を行い、更に、契約書類で説明を行うよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族が声を掛けやすい雰囲気づくりをおこない、運営推進会議を活用しながら、意見等を出して頂くよう努めています。	利用者の意見や家族の要望は随時把握し、管理者が中心となり、利用者本位の支援や安全管理の徹底を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見を大切に、職員の意見を重視しながら、業務に反映するよう努めています。	管理者は、職員一人ひとりの特性や状況に合わせて関係性をつくるようにしており、意見を言いやすい環境づくりに努めている。出された意見は検討して反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況、勤務態度により、給与に反映するようし、仕事にやりがいと意欲が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場に応じて、外部研修が受けられるよう努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勤務状況において、時間確保が難しいが、情報交換ができる機会があれば、サービス向上につながるよう取り組むよう努めます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に多くの情報を収集し、入居時に職員が共有することで、できる限り不穏にならないように対応が出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前にご家族が困っている事をお伺いすると共にご要望を傾聴しながら、関係作りと協力体制を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者のご家族の関係、本人の性格や習慣を理解し、必要な支援を早期に見出すよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人本位であることを考慮しながら介護拒否が見られたときも強制せず、声掛けやタイミングを大切にしながら関わるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ感染予防対策により、ご家族との外出、外泊が中止、面会制限もあり、ホームの理念でもある「第二の実家」のようなご家族との良い時間が取れずにいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は親類、知人、友人、近隣の方の訪問も自由に開かれた状態でした。現在は、新型コロナ感染予防対策により、困難な状況にあります。	コロナ禍により、現在対面での交流はできない状況である。職員は、利用者が大切に思っている場所や人について、会話の中で触れて関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が共に過ごすことで、次第に不穏なく生活出来るようになっていますが、入居者同士の相性を考え、良い関係が保てるよう努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族から相談があれば、できる範囲で協力、支援するよう努めています。逆に退去後もご支援して下さい方もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報収集と共に、入居後の状態を把握し、本人本位に生活できるゆ努めています。	利用者の生活歴を確認するほか、日々の関わり中で、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を活用すると共に、これまでの暮らし方、生活歴、環境、サービス等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの残存能力を把握し、入居後も出来ることを継続して頂けるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に要望を伺い、また、ご家族に入居者の状況を伝えながら要望を伺う。更に、職員もモニタリングに参加し、より現場の声を反映するように努めています。	利用者や家族の意向を踏まえ、職員の意見や日々の記録を参考にして介護計画を作成している。また、見直しは担当者会議などでおこなっている。利用者の状況に変化があれば、その都度見直している。	職員はモニタリング表に沿って、利用者の課題や実施状況を確認している。職員が一人ひとりの利用者を意識して確認できるようなモニタリング表があるとよいと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録を基本に入居者の状態把握が出来るようになっており、更に、月例ミーティング前と連絡ノートにおいて		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの認知症状、家族関係を把握しながら、柔軟性を持ち、その場面にあった対応をしていくよう努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて近隣の方との関係性を築いてきたが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策により、ホーム施設内での安全な生活中心となっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者、ご家族の希望によりホーム提携医療機関の医師がかかりつけ医となっています。専門医の診療が必要な方は、ご家族の対応で通院して頂いています。	協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている利用者が多いが、もともとのかかりつけ医にかかる事もできるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ターミナルケア(看取り)を行っていない為、訪問看護体制もありません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後、ホームでの生活が可能と判断される方は、病院、入居者、ご家族と相談しながら早期退院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア(看取り)を行っていないことを入居前に説明し、入居後も入居者の状態を確認し、ご家族と話し合いの元で、協力しながら対応するよう努めています。	入居時に「重度化対応に関する指針」を提示し、看取りケアをしていないことを説明している。食事摂取状態などの変化が見られるようになった時は、協力医、家族やホームで話し合う体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の通報対応、連絡、報告が行える体制をつくり、誤嚥、止血対応等の研修も行うよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と、自然災害に対する避難訓練を行えるよう努めています。	年2回消防訓練、夜間訓練などを実施している。避難訓練終了後には振り返りを行っている。災害時に備えて、毎日その日の職員の役割分担などを掲示している。	昨今は想定外の災害も多発している。夜勤者を含む全員が、さまざまな災害を想定した訓練に参加できるようにすることが望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格、個性、プライドを理解し、個人を尊重しながら、プライバシー保護に努めています。	利用者の前で、利用者に関する話はしないように徹底している。また、尊厳を大切に、プライバシーに配慮した支援ができるように職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり傾聴しながら会話をし、その中から思いや希望を引き出し、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを入居者のペースに合わせる事は難しいですが、出来る限り、入居者のペースや希望に添って生活できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は定期的な訪問美容を利用したり、お化粧品、衣類などにおいて、喜びや意欲を持って生活できるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度程度、お楽しみお食事会を設けたり、日常生活の中で出来ることに参加して頂けるよう努めています。	昼食と夕食は、食材の会社から来る材料で職員が調理をしている。朝食とお楽しみ食事会は利用者の希望も聞きながら、メニューを考えている。利用者はできる範囲で食器洗いや下膳などに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録管理を行っています。また、入居者の状態によっては、食事形態を変え摂取しやすくなるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行うと共に、希望者や治療が必要と思われる方は、定期的な訪問歯科を利用できるよう努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、トイレ介助しながら、出来るだけトイレでの排泄を促すよう努めています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへ誘導したり、見守りをして排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、屋外散歩が出来ないが、室内での歩行、体操、水分摂取等の働きかけに努めています。便秘改善が見られない方は、便秘薬を利用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則的に週2回の程決まった曜日と時間の入浴となっています。	週2回を基本に、利用者の状況に合わせて入浴を支援している。入浴をしたくないという人には、声掛けの工夫などにより、無理強いせずに入浴につなげるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の認知症の周辺症状にもよりますが、日頃から規則正しい生活をする事で、安眠に繋がるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬情を確認し更に、薬の変更、開始、中止については、申し送り確認するようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の声を傾聴し、好きなことに参加して頂きながら、笑顔を引き出せるよう努めています。嗜好品など希望があれば、ご家族に相談しながら支援できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は入居者の希望に添って散歩、外出、ご家族と入居者の希望で家族のもとに外泊等出来ましたが、新型コロナにより、現在はホーム内での生活を余儀なくされています。	コロナ禍により、外出は控えている状況である。コロナ禍前は、散歩やドライブなどに出かけていた。	ホーム周辺の散歩や外気浴など、利用者が外気に触れる機会を持てるように検討することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方は、金銭トラブルになることがあり、金銭所持の支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	原則、携帯電話の持ち込みは禁止ですが、ご家族と入居者の希望、自己管理ができる方は持ち込み可能です。ご家族からの要望等により電話で会話して頂けるよう努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは窓が広く開放的で、外の風景も楽しめます。壁に季節を感じさせるようなものが飾られたり、入居者の希望で、音楽やテレビ観賞が出来、生活感あふれるよう努めています。	共用部分は室温・湿度も適宜に調節され、リビングは日当たりもよい。季節の行事の写真が掲示されている。昼食後には音楽をかけるなど、ゆったりと過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決められた時間以外は一人ひとりが自由に好きな場所で好きなことをして過ごせるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症による周辺症状によりますが、基本的に入居者にとって居心地の良い場所になるよう、出来るだけ自宅で馴染んだ物を持参して頂けるよう努めています。	入居前から使っていたものや、テレビ、家族の写真など、好きなものを持ってきており、利用者が安心して過ごせるような居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の認知症状、ADLを把握し、現在のレベルに合わせ、出来ることを理解し、安全に配慮しながら生活して頂けるよう努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと